

土岐 志麻

6月11日(木)12日(金)、丸山会長、俵本先生と私の3名は、盛岡駅で待ち合わせし、レンタカーに乗り込みました。俵本先生の運転で、宮古へ向かうこと、約2時間。途中、きれいな川をみながらかっぱでも出そうなところだな～と眺めていました。そういえば、岩手の遠野といえはかっぱ。この澄んだ水と木々を見ているとかっぱはいるのかも・・・とくだらないことを考えているうちに、宮古駅につきました。まずは、昼食を取り、今後の予定を確認します。

私は、初めて訪れた地ですが、丸山先生と俵本先生は駅前がだいぶ変わった。きれいになったとおっしゃっていました。そこから、田老町へ移動です。途中、すれ違うのはダンプばかり。どんどん出たり入ったりして、高台を整備している様子を見ると、まだまだ落ち着くには時間がかかるだろうなという印象でした。

田老町の田老児童館は、これまで JSPP の理事のみなさんが訪れてきた場所です。子どもたちは、お昼寝から覚めたばかりの「ねむ～い」お顔で出迎えてくれました。自己紹介後、子どもたちに歯ブラシをプレゼント。子どもたちからは手作りのブレスレットをいただきました。

その後、わかめ漁師の影田久保さんが、仕事の様子を見せてくださるということで、みんなで行ってみました。国からの援助で、大きな冷蔵庫を立て、漁を再開できたが、9分の1は漁協が支払わなければならない、その支払いが今年から始まり、そのお金を出すのが大変だというお話でした。定置網での漁の分が自分たちでなんとか使えるお金なので、時間があれば、すぐに網の手入れをみんなですて、力を合わせがんばっているということでした。

そこから、田老保育所へお邪魔しました。たくさんのお友達が待っていてくれ、子どもたちに歯ブラシのプレゼントを渡すと、「ありがとうの花」を大きな声で歌ってくれました。一生懸命歌って、元気いっぱいでした。園長先生の話では、来年、新しい園が立つ予定だそうです。

園長先生は、震災のときも田老保育所にいて、子どもたちと一緒に逃げたそうです。そのお話をされている先生の目には涙が浮かんでいました。聞いていて胸が苦しくなりました。田老町では建物のいたるところ、また道路に、ここまで津波がきましたという看板があり、こんなところまで津波が来たら、どうやって逃げるができるのだろうと当時のみなさんの心境を思い、言葉もでません。ただ、私たちにじゃれついてきてくれる子どもたちの笑顔に救われる思いでした。

その日は、グリーンピア三陸に泊まり、3人で地域復興のために、たくさん飲んで食べました。次の日は、いよいよ田老のみなさんに、「目からうろこ」のお話をする日です。が！これまたトラック、ダンプが多くて、大渋滞！時間に余裕を持ってホテルを出たつもりですが、結構ぎりぎりでした。

会場は、社会福祉協議会が運営している「いこいの場 すくすくランド」です。たくさんのおもちゃやドレスがあり、子どもたちが楽しそうに遊んでいました。子どもたちは遊びながら、お母さんたちが私たちのお話を聞くというスタイルで始まりました。幼稚園のお母さんたちにも声をかけてくださったので、参加人数は思ったより多く、大人36名、子ども24名合計60名の

参加でした。また、保健所に勤務していらっしゃる歯科衛生士の飯塚さんが、上司にお願いして1時間だけ休み時間をもらって聴きにきてくれ、とても参考になったこと、もっとアドバイスが欲しいのでこれからも連絡を取りたいという申し出をしてくださいました。ちなみに、飯塚さんは八戸出身で、私のよく知っている先生のところ勤務していた衛生士さんでした。そのため、会話もはずみ、とても打ち解けることができました。

また、講演会には、社会福祉協議会の赤沼会長、岩手県歯科医師会、宮古市歯科医師会理事の久保先生がご出席してくだり、終了後、久保先生からは、「是非、歯科医師に聞いて欲しい」ということから、丸山会長へ講演の依頼がありました。まだまだ宮古とはつながっていきそうです。

講演は、一番若い（自分で言うな）私が、みなさんが飽きる前にお話させていただき、授乳から始まって離乳食の進め方などお口の機能のお話と、むし歯予防のお話をさせていただき、次に丸山会長が、外傷のお話と、パンダがちらっと見えるパンチラの話（どんな話かはご本人に聞いてください）で盛り上げ、最後は大阪人魂の俵本先生が、会場を飽きさせることなく、爆笑の渦に巻き込みながらも、よく噛んで子どもは健康、お母さんはほうれい線がなく、スリムになるという話で、お母さんたちのハートをがちりつかむという、素晴らしい構成での講演でした。

講演終了後は、各講師、個別にみなさんがよってきて質問をたくさんいただき、みなさんいつまでも会場を後にしないという暖かい雰囲気のまま終わりました。アンケートでは、もっと早くに知りたかった。本当に目からうろこだという声がたくさんあり、みなさんのお役にたてたようです。お昼をご馳走になり、田老を後にする私たちは、来年はどうしようかな～という次の構想を練ることで頭がいっぱいでした。来年も私がたろうへお邪魔させていただけるなら、紙芝居や、楽しい歯ブラダンスなど子どもたちと時間を過ごせることを考えて行きたいとおもいます。

私は、今回初めての訪問でしたので、これまでとの違いなどわかりませんので、俵本先生からのご報告も一緒に添付させていただきます。

～～俵本先生より～～～

画集作成の終了に伴い、被災地への新たな支援活動を計画していましたが、宮古における活動の目途がつかずに困っていました。

そのことをこれまで交流のあった、田老児童館の三浦明美館長にお話ししたところ、それなら社会福祉協議会が運営している「いこいの広場すくすくランド」で、小児歯科のお話をしていただけませんか、と申し出をいただきました。

すくすくランドでもこれまで、歯科のお話を聞く機会はあったそうです。

しかし、それまでの話は保健センターの歯科衛生士さんからのお話だったそうで、できればぜひ歯科医師からの話が聴きたいと希望はあったそうです。

しかし残念ながら、小児歯科の専門医のお話を聞く機会はこれまでなく、今回の話は願ってもない企画だと歓迎していただきました。

お話し後のことは土岐先生もよくご存じのことですが、質問もたくさんいただきましたし、参加して下さった県歯理事の久保先生も、大変喜んでくださいました。

これからも引き続き、宮古での活動の可能性を残した、今回の訪問だったと思いま

す。

街の復興については、今後の基本方針が決まったのででしょう、宅地造成などが急ピッチで進められていました。

走っている車はダンプカーが非常に多く、まるで開拓時代のどこかの国に紛れ込んだ感じさえしました。

後は人が戻り定着し、産業が復興することを願うのみです。

田老の「真崎わかめ」の販売協力を行うことになったのも、児童館の三浦先生からの支援依頼が始まりでした。

児童館に通っている児童のお家が、わかめ漁師の子がいました。

震災後、津波で壊されてしまったわかめの養殖設備を、皆で懸命の修復しわかめが採れるようになってきたのですが、残念ながら震災を機に離れてしまった取引先は、震災前の5割ほどしか戻ってこないというのです。

わたしたちは業者ではないので、皆が少々購入してもその影響はわずかしかないかもしれせん。

しかしそれでも、被災地の皆さんを励ます力になればと、JSPP 理事会や研修会、さらには小児歯科学会場での購入申し込みを受け付けることにしたのです。

JSPP 会員や日本小児歯科学会会員の皆さんには、心からの支援をいただいています。しかし残念ながら今日に至っても、わかめの販路は5~6割までしか戻っていないようです。

今回わかめ漁師の、影田久保さんのご厚意により、わかめ漁の合間に行う定置網の準備作業の様子を、見せていただくことができました。

子どもたちも懸命の家業の手伝いをしているとのことでした。

これからも引き続き、田老への支援活動を継続したいと考えています。

ビーバー小児歯科 俵本寛志